

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

環境報告書

2009

ENVIRONMENTAL REPORT

株式会社 **東芝** セミコンダクター社
マイクロエレクトロニクスセンター

環境ビジョン 2050

東芝グループは、
地球と調和した人類の豊かな生活に向けて、
環境経営を推進します。



東芝グループでは、「地球と調和した人類の豊かな生活」を、2050年までに実現すべき“あるべき姿”と考え、その実現に向けた「東芝グループ環境ビジョン2050」を策定しました。

このビジョンのもと、環境負荷を低減するとともに、新しい豊かな価値を創造していくことが、「地球内企業」としての使命だと考えており、マイクロエレクトロニクスセンターでも、環境に配慮した事業活動を推進し、様々な取組みを展開しています。

事業場概要 (2009年4月1日現在)

名称	マイクロエレクトロニクスセンター
所在地	川崎市幸区小向東芝町1番地
発足	1958年
人員	約5,700人(構内常駐関係会社等含む)
拠点 (拠点所在地)	半導体システム技術センター分室 (川崎市幸区堀川町580番1号) 大船分室 (横浜市栄区笠間2丁目5番1号)

Contents

はじめに	1
目次	2
ごあいさつ	3
環境方針	4
環境経営	5
目標と実績	6
環境負荷の状況	7
環境会計実績報告	8
地球温暖化防止活動	9 ~ 10
資源の有効利用	11
環境リスクの低減	12 ~ 14
環境コミュニケーションの推進	15 ~ 18

編集方針

本環境報告書は、株式会社東芝 セミコンダクター社マイクロエレクトロニクスセンターの環境活動をステークホルダー（利害関係を有する方々）の皆様に分かりやすく紹介することを目指しています。

記載内容は、環境省発行の「環境報告書ガイドライン2007」を参考に編集しています。

報告対象範囲

対象期間：2008年度（2008年4月1日から2009年3月31日まで）

対象組織：株式会社東芝 セミコンダクター社マイクロエレクトロニクスセンター
及び事業場の構内常駐会社

対象事業場：マイクロエレクトロニクスセンター
半導体システム技術センター分室
大船分室

株式会社東芝 セミコンダクター社
マイクロエレクトロニクスセンター

所長 大 戸 秀 起



株式会社東芝 セミコンダクター社マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝半導体の開発拠点として、環境に配慮した半導体製品の開発を通じて豊かな価値を創造するとともに、環境への取り組みを経営の最重要課題の一つと位置付けて地球との共生を図ることで、持続可能な社会へ貢献します。

当事業場は、セミコンダクター社の製品開発の中心として環境調和型製品を創出しており、製品の低消費電力化による省エネルギーや小型化による資源の有効利用などを推進しています。

しかしその一方で、私たちが所属するセミコンダクター社の事業活動においては非常に多くのエネルギーを消費するとともに、PFCなどの温室効果ガスを排出しています。

そこで、当事業場では環境への取り組みを経営の最重要課題の一つと位置付け、事業活動における環境負荷の低減活動を推進しています。特に地球温暖化防止については、製品開発の過程で主に消費される都市ガス及び電力の消費量削減を目的として、昨年度、ボイラーや冷凍機、パッケージエアコンを高効率なものに更新する設備投資を行いました。また、これらハード面の施策に加えて空調動力の最適化などソフト面の施策にも継続して取り組んでいます。

東芝グループは「環境ビジョン2050」で、「地球と調和した人類の豊かな生活」を2050年のあるべき姿として描き、達成のための中期的な環境経営施策を第4次環境ボランティアプランとしてまとめています。そしてこのボランティアプランでは、2012年までを活動期間として「製品の環境効率向上」と「事業プロセスの環境効率向上」について、具体的数値目標を設定しています。当事業場はこの環境ビジョン2050のもと、全ての従業員が一丸となって環境に配慮した事業活動を推進し、持続可能な社会へ貢献していきます。

この環境報告書において、私たちの2008年度の活動成果をご報告致します。ご一読いただき、当事業場の環境活動に対するご理解をいただくとともに、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

(株)東芝 セミコンダクター社
マイクロエレクトロニクスセンター 環境方針

－ 理念 －

マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝グループの理念である「かけがえのない地球環境」を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで持続可能な社会へ貢献します。

－ 方針 －

マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝 セミコンダクター社グループの環境方針に基づき、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ、事業活動における環境負荷の低減活動を推進するとともに、日々の暮らしや様々な産業分野に欠かすことのできない半導体の設計・開発の拠点として、環境配慮型製品やプロセス技術等の研究開発を推進することで社会に貢献することを目指します。

当事業場は、研究開発都市川崎の東部に位置し、多摩川に近接した周辺を住宅地に囲まれた小向地区と、川崎駅に近接した半導体システム技術センター分室、及び横浜市栄区の大船分室をきめ、都市に立地する事業場として周辺地域社会との協調連帯を図ります。

1. 環境影響評価の結果を考慮して、環境目的・目標、及び実施計画を定め、環境マネジメントシステムの継続的な改善及び汚染防止に全員で取り組みます。
2. 環境に関する法令、同意した協定、業界指針及び自主基準など当事業場の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 事業活動に伴う環境負荷の低減活動、及び有益な環境側面の積極展開を推進します。
 - (1) 動力、空調、設計・開発・評価用設備を中心とし、執務室・実験室等のエネルギー消費量削減施策の実施により地球温暖化防止を推進します。
 - (2) 3R活動による廃棄物総発生量の削減、及び水資源の受入量削減により資源の有効利用を推進します。
 - (3) 使用する化学物質の管理並びに特定した化学物質の環境排出量削減施策の実施により、環境リスクの低減を実現します。
 - (4) 有益な環境側面の積極展開を推進し、社会の環境負荷低減に取組みます。
4. 良き企業市民として、従業員の環境意識向上及び地域社会との協調連帯を図ります。

この環境方針は、社内外に開示するとともに本組織で働く全ての人々に周知し、方針に沿った事業活動を推進します。

2009年 4月 1日
株式会社東芝 セミコンダクター社
マイクロエレクトロニクスセンター

所長

大戸季起

環境マネジメントシステム

マイクロエレクトロニクスセンターではISO14001:2004に適合する環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善・向上を推進しています。

ISO14001認証取得

1997年2月に初めて認証を取得し、2007年度より半導体事業全体をスルーした活動を目指し、株式会社東芝 セミコンダクター社グループとしてISO14001統合認証を取得しました。

2008年度は6月に統合認証審査STEP2*を受審し、認証を継続しました。

東芝総合環境監査システム「EASTER*」

東芝総合環境監査システムに基づき、社内で認定されたEASTER監査員によって毎年1回定期的に監査が実施されます。監査内容は環境経営の状況や環境関連施設の管理状態等です。

2008年度は、2009年1月に実施され、環境経営監査：A、現場環境監査：Aの評価を受けました。

ISO14001審査履歴

1997年2月	本審査	認証登録
1998年3月	1年次サーベイランス	継続
1999年3月	2年次サーベイランス	継続
2000年3月	更新審査	認証更新
2001年3月	1年次サーベイランス	継続
2002年2月	2年次サーベイランス	継続
2003年3月	更新審査	認証更新
2004年2月	1年次サーベイランス	継続
2004年8月	更新及び拡大審査	拡大認証登録
2005年8月	1年次サーベイランス	継続
2006年8月	2年次サーベイランス	継続
2007年7月	統合認証審査STEP1*	統合認証取得
2008年6月	統合認証審査STEP2*	統合認証継続

* 統合認証審査のSTEPについて

セミコンダクター社グループ統合認証の範囲を段階的に拡大し、認証取得を推進しています。

STEP1: セミコンダクター社の営業拠点を含む本社組織と国内主要事業場の全7サイト

STEP2: セミコンダクター社の国内グループ会社(会社統合計画等のため一部対象外)

現場監査風景



*EASTER: Environmental Audit System in Toshiba on basis of Eco Responsibility

2008年度環境目的・目標、実績

環境目的	環境目標	目標値	実績	関連ページ
環境経営体制の構築	ISO14001 EMSの継続改善	ISO14001 [セミコン社] 統合認証STEP2 認証継続	統合認証STEP2を 受審し認証を継続	P5
	施設管理 レベルの向上	EASTER評価 環境経営監査：A 現場環境監査：A	EASTER評価実績 環境経営監査：A 現場環境監査：A	P5
地球温暖化防止の推進	エネルギー 起源CO 排出量の削減	CO 排出削減量 1,994[t-CO] 以上/年	3,158[t-CO]/年 達成率 162%	P9 P10
資源の有効利用の推進	排出物総発生 量の削減	排出物総発生量 485.0t以下/年	421.3t/年 達成率 115%	P11
環境リスクの低減	指定有害化学 物質排出量の 抑制	指定有害化学物質 排出量 541kg以下/年	493.9kg/年 達成率 110%	P12
環境コミュニケーションの推進	地域社会との 協調連帯	各種行事の実施 環境報告書の発行	ライトダウンキャン ペーン・構外清掃な ど各種行事を計画通 り実施	P15～ P18
環境意識の向上	啓発施策の 実施・展開	各種行事の実施	環境月間、3R推進 月間、省エネルギー 月間において環境意 識向上につながる各 種啓発行事を実施	P15～ P18

電力(万kwh)

: 8,463

用水(m³)

: 371,236

都市ガス (KNm³)

: 2,546

化学物質(kg)

: 23,240

資源・原材料(t)

鉄	: 2,261	ニッケル	: 55	プラスチック	: 885
アルミニウム	: 535	亜鉛	: 56	ゴム	: 42
銅	: 188	マンガン	: 29	ガラス	: 159
鉛	: 32	クロム	: 28	紙	: 1,678
				その他	: 2,770

インプット



マイクロエレクトロニクスセンターの事業活動

半導体製品の設計・システム技術開発・プロセス技術開発・試作・評価



二酸化炭素(t - CO₂)

: 37,097

廃棄物(t)

総排出量 : 421.3

最終処分量 : 2.1

化学物質(kg)

: 493.9

窒素酸化物(kg)

: 1,218

放流水(m³)

: 335,967

アウトプット

環境保全コスト		2008年度実績		主な取組内容
		設備投資 (千円)	費用 (千円)	
事業内エリア	公害防止	0	59,526	スクラバー維持運用 排水処理
	地球環境保全	362,656	145,258	省エネルギー対策
	資源循環	0	31,234	廃棄物処理 排水回収
上流・下流	製品環境配慮	0	0	-
管理活動		0	178,550	環境管理 環境教育 排水分析
研究開発		0	0	-
社会活動		0	0	-
環境損傷対応		0	99,482	地下水分析・浄化
合計		362,656	514,050	

環境保全実質効果 (対前年度比)		対前年度比効果	
		削減量	削減効果額 (千円)
エネルギー	電力	504(万kwh)	-83,883
	都市ガス	-19(km³)	-33,593
	ガソリン	1(kℓ)	107
廃棄物(総発生量)		74(t)	-7,922
用水(市水・工水)		34,925(m³)	24,972

環境保全みなし効果 (対前年度比)		対前年度比効果	
		削減量(kg)	削減効果額 (千円)
排水(事業場排水)		-990	-24,797
大気(ばいじん・窒素酸化物)		84	3,487

2008年度は原油価格高騰の影響で、エネルギー関連の価格単価が上昇したため、使用量は削減したものの、支払金額は増えるという逆転現象が発生しました。

廃棄物においては、拠点再編によって処理費用がかかる什器等の廃棄物が増加し、総排出量は削減したものの、支払金額は増加しました。

この2点により、2007年度に対する削減効果額は大幅にマイナスとなっています。

2008年度は2007年度に対して排水の環境負荷物質排出量が増加したため、削減効果はマイナスとなりました。

地球温暖化防止の推進

地球温暖化を防止するために、燃料・電気等を消費する設備の維持管理、使用方法の改善など、省エネルギー活動を推進しています。

また、行政等の取り組みに呼応し、クールビズやネオンの消灯なども積極的に取り組んでいます。

目標

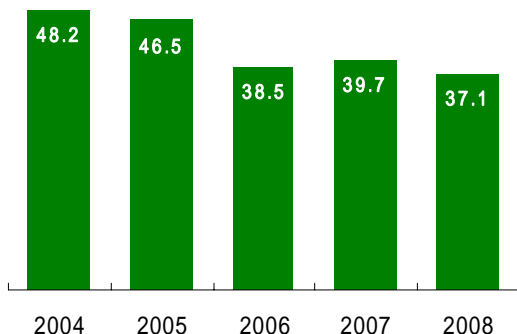
省エネルギー施策による
CO₂排出削減量
1,994 [t - CO₂] 以上 / 年

実績

3,158 [t - CO₂] 以上 / 年
達成率 162%

CO₂排出量の推移

[千t - CO₂]



主な省エネルギー施策

	CO ₂ 排出量削減施策項目	削減実績 (t-CO ₂ /年)
1	クリーンルーム移転・統合（装置）	713.9
2	コンプレッサー効率向上（更新、INV制御、ゼロパーズ）	282.8
3	クリーンルーム空調動力低下施策	255.8
4	熱源改修（ボイラー／冷凍機更新）	102.1
5	チラーライン冷水化	99.6
6	テスター室空調効率向上（INV化）	135.5
7	テスター冷却水の削減	94.5
8	その他、54項目	1,474.0
合計		3,158.2

省エネルギー施策事例

1. 施策概要：

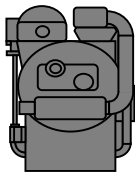
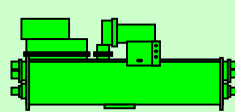


(1) 冷熱源周りの合理化

既設の吸収式冷凍機を高効率インバーター式ターボ冷凍機に更新し、蒸気（都市ガス）を削減しました。この際、現状負荷に見合った冷凍容量で選定（縮小化）し、運転効率の向上を図りました。

(2) 温熱源周りの合理化

既設の水管式ボイラーを高効率の貫流式ボイラーに更新しました。この際、現状負荷と同上による蒸気削減分を考慮した適正な容量で選定（縮小化）すると共に、台数制御を行い、運転効率の向上を図りました。

2. 効果：CO₂削減 5,248t - CO₂/年

熱源	従来	更新概要
冷熱源システム	吸収式冷凍機 (効率COP1*) ・720USRT*2 × 3台  総合2,160USRT	ターボ冷凍機 (効率COP6 (部分負荷最大21.9)) ・インバーター式 750USRT × 1台 ・定速式 750USRT × 1台  総合1,500USRT
温熱源システム	水管式ボイラー (効率87%) ・16t/h × 1台 ・12t/h × 2台  総合40t/h	貫流式ボイラー (効率96%) ・2.5t/h × 4台  総合10t/h

* 1: COP (Coefficient Of Performance) …冷房機器などのエネルギー消費効率の目安として使われる係数

* 2: USRT (アメリカ冷凍トン) …冷凍機の能力を表す単位

事業活動に伴って発生する廃棄物を適正に分別、保管、収集・運搬及び処理・処分することにより関係法令の順守と環境保全の向上を図っています。

また、もったいない運動（P18参照）やOA紙の削減など、廃棄物発生を抑制する取り組みも積極的に行っています。

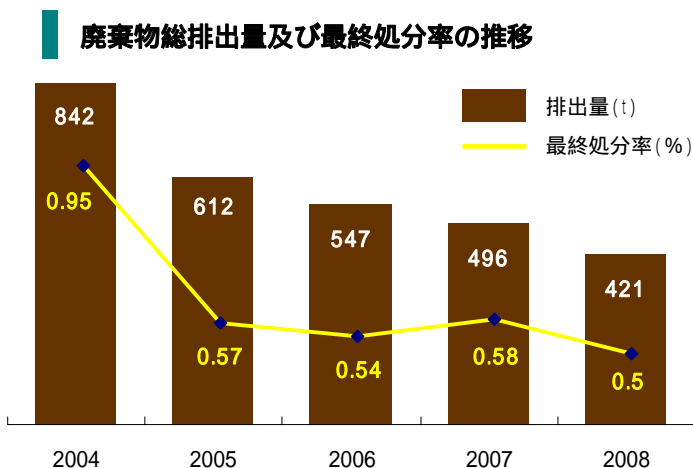
目標

排出物総発生量
485.0t以下/年

実績

421.3t
達成率 115%

廃棄物総排出量及び最終処分率の推移

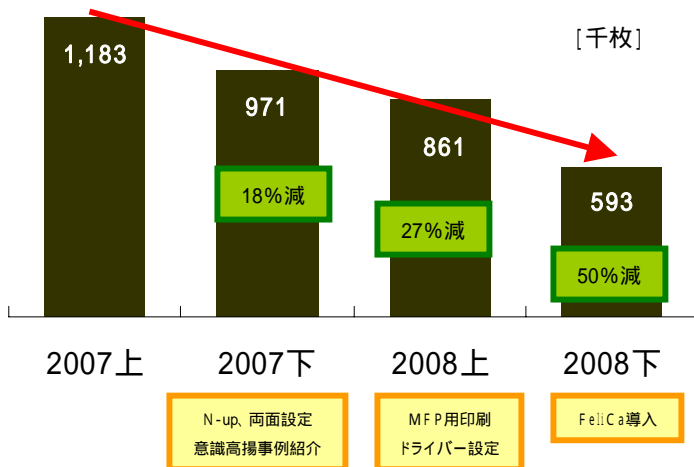


OA紙削減施策

2007年度下期からOA紙の削減運動を推進しています。

N-up印刷*1・両面印刷の推進、MFP*2の導入、『FeliCa*3』の導入などを実施し、2007年度上期に対して、月あたりの使用枚数を約50%削減しました。

OA紙 月あたりの使用量実績



N-up, 両面設定
意識高揚事例紹介

MFP用印刷
ドライバー設定

FeliCa導入

*1: N-up印刷…複数のページデータを一枚の用紙に均等に割り付けてプリントする方法。
*2: MFP (Multifunction Peripheral)…複数の機能を搭載した機器。一台でプリンター・スキャナー・コピー・FAXなどの機能を兼ねる。
*3: FeliCa導入…個人を特定する非接触型ICカードを配付し、無駄なプリントを減らす取り組み。

事業活動において発生する環境へのリスクを低減するため、使用する化学物質の削減、排水水質・大気へ排出する環境負荷物質の管理を徹底しています。

指定有害化学物質の削減

化学物質を使用する装置及び排ガス洗浄装置（スクラバー）を適正に管理し、指定有害化学物質の使用量の削減と環境中への排出量の抑制・削減のため、各種施策を実施しています。

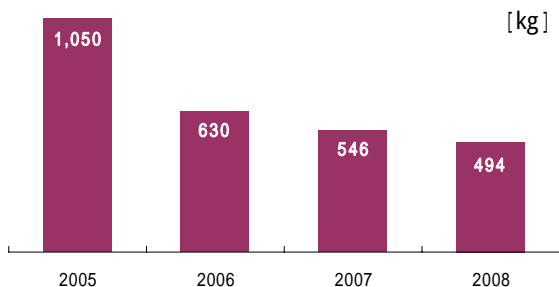
目標

指定有害化学物質排出量
541kg以下/年

実績

493.9kg
達成率 110%

指定有害化学物質排出量の推移



化学物質削減のための主な施策

- ・純水製造装置の樹脂再生頻度変更
- ・排水処理施設統廃合
- ・半導体プロセス開発用クリーンルームの統廃合

P R T R *対象物質の管理

東芝グループではP R T R法施行（2000年3月30日）以前から、独自に指定化学物質の排出、移動量などの把握に努めてきました。当事業場では、東芝グループの指針に準拠し、年間100kg以上取扱う第一種指定化学物質を対象とし排出量などを開示しています。

P R T R対象物質・群	使用量	大気					下水		廃水処理			製品転化	副生成物	分解	処理施設	その他
		大気	公共水域	土壌	自立埋設	業者廃棄	下水道	廃水処理	副生成物	分解	処理施設					
ふっ化水素及びその水溶性塩	225.1	1.7	0	0	0	0	0	223.4	0	0	0	0	0	0	0	0
銅水溶性塩（錯塩を除く）	155.2	0	0	0	0	155.0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	

* P R T R・・・化学物質排出移動量届出制度 (Pollutant Release and Transfer Register)

排水の管理

マイクロエレクトロニクスセンターから排出される排水は法規制値よりも厳しい自主基準値を設定して適正に管理しており、継続的に水質の環境負荷低減を図っています。排水処理施設の水質（pH及びフッ素）は常時監視し、万が一自主基準値超過が発生した場合は、下水道への放流を遮断するシステム（緊急遮断弁）を有しており、その他生活系及び雨水排水経路の水質もpHを常時監視しています。また、万が一の事態に備えて緊急事態対応訓練を毎年実施し、万全の体制を整えています。

[mg/l] (pHを除く)

	測定対象物質	規制基準	自主基準	実測値*
有害物質	カドミウム及びその化合物	0.1	0.02	<0.01
	鉛及びその化合物	3	0.02	<0.01
	六価クロム化合物	0.5	0.06	<0.05
	水銀及び揮発性水銀その他の水銀化合物	0.005	0.0006	<0.0005
	砒素及びその化合物	0.1	0.01	<0.005
	シアン化合物	1	0.03	<0.02
	トリクロロエチレン	0.3	0.002	<0.001
	テトラクロロエチレン	0.1	0.001	<0.0005
	1,1,1-トリクロロエタン	3	0.002	<0.001
	四塩化炭素	0.02	0.0002	<0.0001
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4	0.003	<0.001
	ジクロロメタン	0.2	0.002	<0.001
	1,2-ジクロロエタン	0.04	0.002	<0.001
	1,1-ジクロロエチレン	0.2	0.002	<0.001
	1,1,2-トリクロロエタン	0.06	0.002	<0.001
	1,3-ジクロロプロペン	0.02	0.002	<0.001
	ベンゼン	0.1	0.002	<0.001
	フッ素化合物	15	10	1.6
	ホウ素	230	1	<0.1
	その他の項目又は物質	水素イオン濃度（pH）	5.0~9.0	6.2~8.5
生物学的酸素要求量（BOD）		300	100	16
浮遊物質（SS）		300	40	8
揮発性抽出物質（鉱油類）		5	3	<2
揮発性抽出物質（動植物油脂類）		30(10)*	10	4
銅及びその化合物		3	0.8	0.09
亜鉛及びその化合物		3	0.5	0.06
鉄及びその化合物（溶解性）		10	0.8	0.12
ニッケル含有量		1	0.02	<0.01
マンガン及びその化合物（溶解性）		1	0.2	0.06
クロム及びその化合物		2	0.1	<0.05
炭含有量		20	3	0.5
窒素含有量		150	50	4
フェノール類		0.5	0.03	<0.02

* 実測値は年間の平均値を算出しています（定量下限値以下の場合、定量下限値を測定値として算出しています）。

*（ ）内の数字はこれを越えた場合に除害施設の設置又は必要な処置をとらなければならない基準値です。

大気の管理

大気へ排出する環境負荷物質の管理については、大気汚染防止法に該当する施設（ボイラー）を所有していますが、自主基準値を設定し日常管理を徹底して大気汚染の防止に努めています。スクラバーや活性炭吸着塔などの排ガス洗浄塔においても、徹底的な日常管理のもと、事業活動により排出する排ガス、敷地境界線上の大気（悪臭物質を含む）について適正に管理しています。

	測定項目及び物質	規制基準	自主基準	実測値	単位
ボイラー (3)	窒素酸化物排出量（日規制）	63	51	22	mg/1000KJ
	硫黄酸化物排出量	140	14.33	<0.8	mg/1000KJ
	窒素酸化物排出総量（年規制）	5,706	2,500	1,089	Kg/年
	粒子状物質排出総量（年規制）	886	240	121.8	Kg/年
ボイラー (小型貫流式 1～ 4)	窒素酸化物（日規制） 1	63	59	11.7	mg/1000KJ
	窒素酸化物（日規制） 2	63	59	2.5	mg/1000KJ
	窒素酸化物（日規制） 3	63	59	10.8	mg/1000KJ
	窒素酸化物（日規制） 4	63	59	10.8	mg/1000KJ
	窒素酸化物排出総量（年規制）	1,013	-	129.1	Kg/年
	粒子状物質排出総量（年規制）	160	-	15.2	Kg/年
排ガス 洗浄塔	フッ化水素	2.5	0.5	<0.1	mg/Nm ³
	塩化水素	8	4	0.09	mg/Nm ³
	ベンゼン	10	1	<0.1	ppm
	トルエン	100	1	0.13	ppm
	キシレン	150	1	<0.1	ppm
	二酸化窒素	100	1	<0.1	ppm
	アンモニア	50	10	<0.1	ppm
	塩素	1	0.2	<0.03	ppm

* 窒素酸化物と粒子状物質の排出総量は燃料使用量、排ガス量、運転時間、排ガス濃度等から算出したものです。
* ボイラー 3 は約 1 1 箇月間運転、ボイラー（小型貫流式 1～ 4 は約 2 箇月間運転の実績に基づく規制基準値、及び実績値です。

(MC)まつり

会社創立記念日である7月1日に地域の皆様に事業場を開放し、(MC)まつりを開催しています。

2008年度の(MC)まつりでは、2007年度に引き続き、ご来場いただいたお客様を対象に日常生活における省エネルギー活動実施状況についてアンケート調査を行いました。

2007年度のアンケートと比べて、日常生活における省エネルギー活動が浸透していることを実感できる結果となりました(表を参照)。

アンケートにご協力いただいた方には、古紙をリサイクルして作られたティッシュペーパーを贈呈しました。

クリーンキャンペーン

多摩川河川敷、川崎駅周辺、大船分室周辺において、毎年1回、従業員及び関係会社等従業員によるクリーンキャンペーンを行っています。

本活動は、CSR活動の一環として、就業後に実施するボランティア清掃活動で、大船分室周辺と川崎駅周辺は今回で3回目、多摩川河川敷は4回目になります。

多摩川クリーンキャンペーン



川崎駅周辺クリーンキャンペーン



実施項目	実施している人		
	2007年度	2008年度	差
冷房の温度設定を28にできるように心がけている。	74	94	+20
蛇口をこまめに締めるように心がけている。	90	115	+25
環境に優しい車の運転を心がけている。	39	57	+18
環境にやさしい製品を選んで購入している。	49	61	+12
使わない電気製品のコンセントを抜くように心がけている。	67	92	+25
買物に行くときは自分の買物バッグを持っていくようにしている。	47	120	+73
合計	366	539	+173

省エネルギー活動実施状況アンケート

アンケート結果



環境フォトコンテスト・環境標語コンテスト

毎年、環境月間である6月に従業員による環境フォトコンテストと環境標語コンテストを実施しています。

2008年度環境フォトコンテスト受賞作品



「温暖化防止に貢献しているで賞」
床枝政則さんの作品



「最後の一羽にはなりたくないで賞」
山下恵三さんの作品



「初めての海はどう見えたで賞」
青柳洋史さんの作品



「魚が棲める海であって欲しいで賞」
生井敦さんの作品



「いつまでも美しい姿を見たいで賞」
菅原永治さんの作品



「もう見たくないで賞」
鈴木成司さんの作品

2008年度環境標語コンテスト受賞作品

『小さなことからコツコツと 地球に優しいエコ習慣』

天野直美さんの作品

『きれいな地球 未来に繋ぐ エコリレー』

高柳匡一さんの作品

グリーン調達

近年、法制化された欧州のRoHS指令*などの環境法規制等に対応すべく、株式会社東芝 セミコンダクター社では、グリーン調達ガイドラインを定めています。マイクロエレクトロニクスセンターでは、グリーン調達ガイドラインに基づいて調達活動を行っており、取引先企業と協同で環境負荷が小さい調達品の選定に努めています。

* RoHS指令・・・電気・電子機器に含まれる危険物質を規定し、物質の使用を禁止する指令。

川崎市環境行動事業所

マイクロエレクトロニクスセンターは川崎市の「環境行動事業所*」に認定されています。

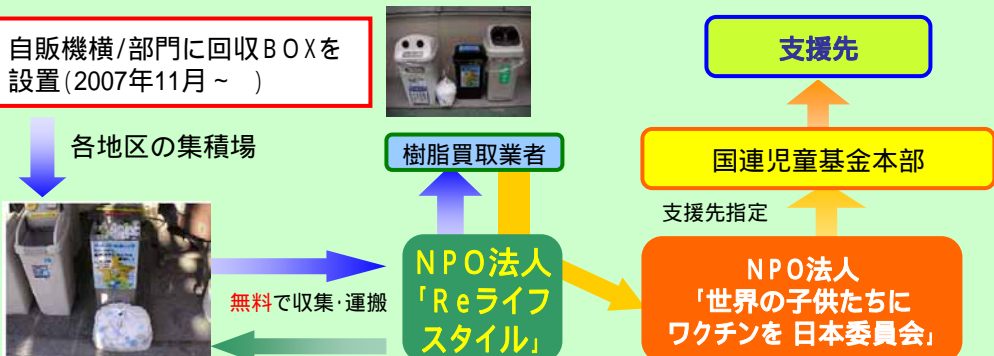
環境行動事業所認定書

* 川崎市環境行動事業所
川崎市では、環境への配慮に優れている事業所を認定する制度「環境行動事業所認定制度」が運用されています。
この制度は環境保全に関する活動を積極的に実施している事業所であって、一定の基準を満たしている事業所を「環境行動事業所」として認定するものです。



PETボトルキャップで世界の子供たちにワクチンを！

PETボトルキャップを分別回収しNPOに寄付、NPOは樹脂買取業者に売却し売却金を全額ユニセフに寄付しています。世界の子供達にワクチンを提供するとともに資源の有効活用を図っています。



2008年度 PETボトルキャップ回収量及びワクチン寄付実績

回収重量：1,976kg
個数：約79万個

ポリオワクチン：約1,975人分

もったいない運動

リユースの促進を目的に、各職場で眠っているリユース可能品を発掘し、必要としている部門で有効活用してもらう「もったいない運動」を実施しています。2008年度は年間を通して運動を実施し、10月の3R* 推進月間を『もったいない運動強化月間』としてリユース品を展示し、必要な部門に活用してもらいました。強化月間中は、展示会場に約900人の方が来場し、約1,030kgをリユースしました。

*3R(スリーアール)・・・リデュース、リユース、リサイクル

もったいない運動強化月間



資源の有効利用のためのパネルを展示



風と太陽の力で省エネルギーを実現！

ハイブリッド型マイクロ風力発電装置『WIND FLOWER』

半導体システム技術センター分室の敷地内に風力発電と太陽光発電が一体となった発電装置『WIND FLOWER』を設置しています。この装置で発電された電力は一階フロアにあるインフォメーションコーナーのスポットライトに供給されています。

『WIND FLOWER』



電力供給

インフォメーションコーナー



LEDスポットライト





東芝グループ
地球環境マーク

株式会社 **東芝** セミコンダクター社

マイクロエレクトロニクスセンター Micro Electronics Center
〒212-8583 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1

半導体システム技術センター分室 Semiconductor System Engineering Center Office
〒202-8520 神奈川県川崎市幸区堀川町580番1号(川崎東芝ビル)

大船分室 Ofuna Office
〒247-8585 神奈川県横浜市栄区笠間2丁目5番1号(STEビル)

発行 生産技術部環境保全担当 総務部総務担当
TEL 044-549-2511(ダイヤルイン)

本報告書の内容や当事業場の環境保全活動に関するご意見、ご質問などございましたら
ご遠慮なく上記の発行担当までお問い合わせください。



インキに含まれる石油系溶剤の一部を大豆油に
替えた環境に配慮したインキを使用しました。



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に
配慮した100%植物油インキを使用しました。



有機物質を含んだ溶剤が少ない、
水なし印刷方式で作成しました。



新しい基準に従い、適切に管理された森林の
木材を原料としている紙を使用しました。